

人類学「再」前線

～いま、人類学の可能性について考える～

高校生無料
会員・一般は有料

オンライン

東京都立大学オープンユニバーシティでは、オンライン スペシャル講座を開講いたします。オンラインならではの特性を活かし、全国の様々な研究者や専門家が登壇し、ユニークかつ興味深い講座を提供します。

今回は、人類の多様性を研究する学問である「人類学」がテーマです。異常気象やイデオロギー・宗教観の違いによる紛争など危機に直面する世界において、人類学が果たす役割についても考えます。

人間とはとても興味深い「種」です。地球上のすべての人々が、ホモ・サピエンスというひとつの種に属しながらも、地域や国などによって実に多様な考え方や生き様があり、またそれがゆえにすれ違ったり衝突したりすることもあります。グローバルな次元での共通価値を追い求める動きも活発に続けられてきていますが、近年の世界の動向をみるにつけ、その試みは必ずしも成功しているようには見えません。

こうした人間の「性（さが）」を長い間見つけ、またそれについて草の根レベルで問い続けてきたのが人類学です。人類学は人間を多様性と普遍性の双方、あるいはその間の関係から理解しようとしています。そのための代表的な手法がフィールドワークであり、人類学者は世界各地に赴いて人々と暮らしを共にし、人々の生の声に耳を傾けつつ、常に変わっていく世界と私たちが向き合うための方法論や視点を提供してきました。いわゆる伝統的な社会に関する研究であると思われがちですが、現代の人類学は、先進国の都市社会の動向、大企業やスタートアップ企業についての研究まで幅広く行います。単に哲学的な思索に身を委ねるだけでなく、社会を能動的に変えていくための提言やコンサルティングを行うこともあります。

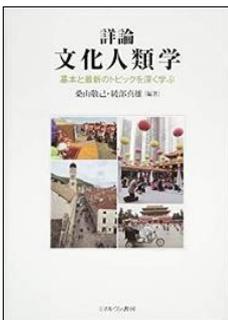
本講座では、「人類学「再」前線」と題して、東京都立大学社会人類学研究室の教員を中心とした様々な地域や分野の専門家が、多彩な視点から人類学の現在位置について講義します。コンテンツ自体の新旧にかかわらず、それぞれがいま最も伝えたいことを中心に講義内容を組み立てる。だからこそ「再」前線」です。

※東京都立大学 社会人類学研究室は1953年に設置された日本で最も歴史のある人類学研究室であり、70年をこえる歴史のなかで育んできた研究成果の還元に努めています。

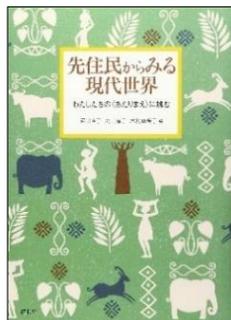


東京都立大学 教授
社会人類学研究室
博士（社会人類学）
綾部 真雄

本講座講師に関係する著作



綾部 真雄 編
(ミネルヴァ書房)



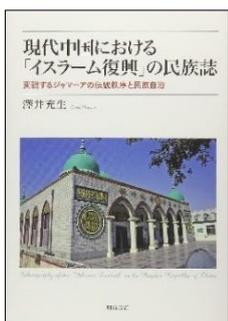
深山 直子 編
(信山社)



岡根谷 実里 著
(大和書房)



河野 正治 著
(風響社)



澤井 充生 著
(明石書店)



河合 洋尚 編
(風響社)



大川内 直子 著
(実業之日本社)



石田 慎一郎 著
(勁草書房)

日時	7月13、20、27日（土）	単位 2	講座コード 高校生専用講座コード	2421G101
	8月3日、9月14、21、28日（土）			2421G102
	10月5日（土） 時間：14:00～15:30			

講座名 **人類学「再」前線**
～いま、人類学の可能性について考える～

受講料 16,000円（8回）※高校生無料
定員 一般60名 高校生40名
講座形式 オンライン専用講座

講座スケジュール

※アーカイブ（録画：7日間限定）視聴も可能です。

講師

7月13日（土） 14:00～15:30	はじめに 人類学という〈仕掛け〉 文化人類学は「文化」という観点から人間の多様性について徹底的に考え抜き、「人間とは何か」という普遍的な疑問に対する答えをアップデートし続けるための〈知的仕掛け〉です。第1回では、人類学的なものの見方の現在地について、具体例を踏まえつつ詳しく紹介します。	東京都立大学 社会人類学研究室 教授 あやべ まさお 綾部 真雄
7月20日（土） 14:00～15:30	先住民から見る現代世界 先住民の視点から現代世界を考えることは、私たちがあたりまえと思っていることを相対化し、逃れられないと感じていることを別角度から捉え直すことに他なりません。過去に立脚し未来を見据える先住民について、グローバルな動向にも注意しながら、NZマオリの事例を中心に紹介します。	東京都立大学 社会人類学研究室 准教授 ふかやま なおこ 深山 直子
7月27日（土） 14:00～15:30	日常の食の人類学「世界の食卓から社会を見る」 台所に入り、家庭の食卓に上る料理をじっと見つめると、それを取り巻く歴史的背景や国際経済や環境問題など、社会につながるさまざまな話題が見えてきます。この講義では、世界の家庭の台所でのフィールドワークをもとに、食を通して各国の社会で起こっている話題をお伝えします。	世界の台所探検家 修士（工学：東京大学） おかね や みさと 岡根谷 美里
8月3日（土） 14:00～15:30	文化人類学から考えるこれからの家族と親族 人類学において家族と親族は長らく社会の基本単位でしたが、「脱家族化」という言葉に象徴されるように、現代社会ではそのあり方が問い直されています。この講義では、私たちと同時代を生きるミクロネシアの人々の家族・親族とのつきあい方から、これからの家族や親族の形を考えます。	東京都立大学 社会人類学研究室 准教授 かわの まさはる 河野 正治
9月14日（土） 14:00～15:30	ポスト世俗化時代の〈宗教〉——習近平体制下の宗教中国化から読み解く 近年、習近平体制下では中華民族共同体の構築が模索され、その一環として宗教中国化が強行されています。本講義では、現代中国の政教分離を紹介しながら、〈宗教〉と〈世俗〉といった概念が世界各地に波及したことの意味を宗教人類学的視点から再考します。	東京都立大学 社会人類学研究室 助教 さわい みつお 澤井 充生
9月21日（土） 14:00～15:30	景観人類学とは何か 人類学はその名の通り人類（人間）を対象とする学問ですが、最近は非人間との関係にも注目が集まっています。我々は景観に囲まれて暮らしています。景観から人間の心理・社会・文化を理解する知的探求心を、ワールドワイドにお伝えします。	東京都立大学 社会人類学研究室 准教授 かわい ひろなお 河合 洋尚
9月28日（土） 14:00～15:30	文化人類学で読み解く資本主義とそのフロンティア 社会問題となっている地球温暖化や格差の拡大。資本主義はこれらの原因とされがちですが、果たして単一の論理で批判される「一つの資本主義」など実在するのでしょうか。資本主義が安易な仮想敵にされる時に見落とされているその本質について、文化人類学のミクロな視点から検討します。	株式会社アイデアファン 代表取締役 修士（学術：東京大学） おおかわち なおこ 大川内 直子
10月5日（土） 14:00～15:30	待つことを知る社会へ：法人類学とアフリカ民族誌からの提言 東アフリカのある民族社会では、調停困難な意見対立が生じると、即効性のない呪物を使い、時間をかけて解決を図ります。それは、自らの成長と周囲の環境変化のなかで新しい理解が得られる未来に現在を開くことです。本講義では、「待つこと」を例題に人間精神の普遍性の在処を探ります。	東京都立大学 社会人類学研究室 教授 いしだ しんいちろう 石田 慎一郎

講座コーディネーター：東京都立大学 社会人類学研究室 教授 綾部 真雄 略歴

博士（社会人類学）。筑波大学第二学群比較文化学類卒。チェンマイ大学社会学部客員研究員を経て、東京都立大学大学院社会科学部研究科博士後期課程単位取得退学。成蹊大学文学部国際文化学科専任講師、助教授を経て、東京都立大学大学院人文科学研究科教授。専門は文化（社会）人類学。『フィールドから地球を学ぶ—地理授業のための60のエピソード』（古今書院）で2023年度（第3回）日本地理教育学会出版文化賞を受賞。

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月5日（水）9：00以降

東京都立大学オープンユニバーシティ インターネット <https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

※高校生は、在学高校名と学年を明記してください。

※高校生の参加は無料です。8回シリーズの講座ですが、高校生は1回だけの参加も可能です。

日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ
国立歴史民俗博物館

高校生無料
会員・一般は有料



2021年春期より「日本の魅力ある博物館・美術館シリーズ」講座がスタートしました。北海道から沖縄まで、日本全国の魅力ある個性豊かなミュージアムとそのコレクションについて、現地からオンラインで講座をお届けしています。今回は国立歴史民俗博物館から縄文時代を中心とした展示の魅力を紹介します。

「歴博」の愛称で親しまれている国立歴史民俗博物館は、1983年3月に開館しました。歴博は、日本の歴史と文化について総合的に研究・展示する博物館で、千葉県佐倉市にある佐倉城址の一角、約13万平方メートルの敷地に延べ床面積約3万8千平方メートルの壮大な規模を有する歴史の殿堂です。先史・古代から現代に至るまでの歴史と列島の民俗文化をテーマに、実物資料に加えて精密な複製品や学問的に裏付けられた復元模型などを積極的に取り入れ日本の歴史と文化についてだれもが容易に理解を深められるよう展示されています。

開館よりすでに40年あまりが経過しており、当初は最新であった展示内容も現在の研究成果によって見直す必要が出てきました。そこで歴博では、第四展示室（民俗）、第一展示室（先史・古代）など、展示室単位で展示内容のリニューアルを行ってきました。今回は、講座ナビゲーターである山田が関わった第一展示室（先史・古代）のリニューアル（2019年3月開室）を対象として、当初の展示から、なにがどのように変わったのか、大テーマ2の内容を中心に展示設計、実際の資料選択における試行錯誤、研究成果をどのように反映させたのか、そして開室から4年経った現在、どのような点がさらに必要となったのかといった展示内容そのものについてお話をします。



講座ナビゲーター
東京都立大学 教授
山田 康弘

講師略歴

1967年東京都生まれ。2011年より国立歴史民俗博物館に勤務し、第一展示室大テーマ2のリニューアルの担当となる。本講座関連著書に『縄文時代の歴史』（講談社現代新書）がある。



縄文時代中期における各地の土器



縄文時代の石棒の展示



国立歴史民俗博物館

住所：〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117

開館時間：3月～9月 9:30～17:00（入館は16:30まで）

（博物館）10月～2月 9:30～16:30（入館は16:00まで）

休館日：毎週月曜日（休日にあたる場合は開館し、当日休館）

年末年始（12月27日～1月4日）

その他休館日あり（詳細はホームページを確認してください）

入館料：一般600円、大学生250円、高校生以下は無料

アクセス：京成電鉄「京成佐倉駅」またはJR東日本「佐倉駅」下車

れきはくホームページ <https://www.rekihaku.ac.jp>



【新HP】QRコード
歴博公式トップ

日時	8月22日(木) 18:30~20:00	単位	講座コード	2421G103
	8月29日(木) 18:30~20:00		高校生専用講座コード	2421G104
講座名	国立歴史民俗博物館 第1展示室大テーマ2 縄文時代展示の構築と現在		受講料	5,000円(2回) ※高校生無料
			定員	一般50名 高校生10名
			講座形式	オンライン専用講座

講座スケジュール ※アーカイブ配信(録画:7日間限定)も視聴できます。

●第1回 8月22日(木) 18:30~20:00

「第一展示室大テーマ2の展示設計と演示について」 講師: 山田康弘

2019年3月に、国立歴史民俗博物館第一展示室はリニューアルしました。当時国立歴史民俗博物館に在籍していた私は大テーマ2(縄文時代)のリニューアル担当者となり、新規にどのような展示内容にするのか、様々な試行錯誤を行いながら展示を完成させました。歴博は、実物展示を旨とする東京国立博物館とは性格が異なり、レプリカを中心として、歴史のストーリーラインをお話する場所でもあります。そのため、レプリカでなければできないアクロバティックな演示を行うことができます。今回は、その当時どのような議論が行われ、どのように展示内容が決められていったのか、さらには演示上の苦労話など、自身の体験をもとにお話したいと思います。

●第2回 8月29日(木) 18:30~20:00

「縄文時代の顔・身体表現-歴博展示資料をもとに-」 講師: 中村耕作先生

縄文土器には様々な形・文様がありますが、特徴的な造形として、顔や身体をもった土器が、時期・地域を限って出現します。例えば、中期前半の中部・関東や、後期後半の東北では、儀礼用の土器が徐々に多様化・複雑化する中で立体的な顔・身体をもった土器が出現し、その姿も多様に変化します。一方、西日本の弥生文化では土器や銅鐸に平面的な線画を施すのみとなります。今回は、歴博で展示している顔・身体を持った縄文土器や土偶・石棒と弥生文化の土器・銅鐸、続縄文文化のクマを表現したスプーンなどの身体表現を紹介しながら、両文化のモノの象徴的意味の違いをお話したいと思います。

※第1展示室で関連資料の展示を2024年9月(予定)まで実施中

【国立歴史民俗博物館 2024春~秋の展示情報】

■特集展示 「幕末の外交官-幕臣柴田剛中とその資料-」

2024年4月23日(火)~7月28日(日)

会場: 国立歴史民俗博物館 第4展示室 特集展示室

■特集展示 「スクワイア家の記憶-ある英国人技術者の遺品から-」

2024年7月23日(火)~10月6日(日)

会場: 国立歴史民俗博物館 第3展示室 特集展示室



講師: ^{やまだ やすひろ} 山田 康弘 東京都立大学 人文社会学部 教授

講師略歴

1967年東京都生まれ。筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科中退。博士(文学)。熊本大学助手、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム学芸員、島根大学教授、国立歴史民俗博物館教授を経て、現在は東京都立大学人文社会学部教授。専門は先史学。著書に『人骨出土例にみる縄文の墓制と社会』(同成社)、『老人と子供の考古学』(吉川弘文館)、『つくられた縄文時代』(新潮選書)、『縄文人の死生観』(角川ソフィア文庫)、『縄文人がぼくの家に来たら!?』(実業之日)



講師: ^{なかむら こうざく} 中村 耕作 国立歴史民俗博物館 准教授

講師略歴

1981年神奈川県伊勢原市生まれ。國學院大学大学院博士課程後期修了。博士(歴史学)。國學院大学栃木短期大学を経て、2022年度より現職。博士論文をもとにした『縄文土器の儀礼利用と象徴操作』(2013年・アム・プロモーション)をはじめ、土器・葬送・石棒などから縄文時代の儀礼・象徴について研究している。2024年度からは、縄文と他の文化を比較する共同研究「顔身体土器の通文化比較にみる身体・モノ認識」を主宰。

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月5日(水)9:00以降

東京都立大学オープンユニバーシティ インターネット <https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

※高校生は、在学高校名と学年を明記してください。

「パンダ学講座」 特別編

高校生無料

会員・一般は有料



日時 8月31日、9月7日（土） 15:00～16:30

単位
1

講座コード
高校生専用講座コード

2421G105

2421G106

講座名 **あらためて、パンダの魅力を考える**

受講料 5,000円（2回）※高校生無料

定員 一般20名 高校生10名

講座形式 オンライン

本講座は、2022年秋期講座で開講したオンライン スペシャル講座「大人のためのパンダ学講座」の特別編になります。おかげさまで「大人のためのパンダ学講座」は全国から多くの皆様に受講していただき好評を博しました。

今回は特別編としてパンダジャーナリストの中川美帆氏が講師を務めます。中川先生には昨年2月に中国に渡った「シャンシャン」との再会などの話も含め、パンダの魅力について様々な視点から語って貰います。

講座スケジュール

※アーカイブ配信（録画）も視聴できます。

本講座では、講師の著作『パンダワールド We love PANDA』（大和書房）の内容をベースに、パンダの魅力を政治・経済・文化・生態など様々な視点から紹介します。

●第1回 パンダ大全・日本パンダ史 8月31日（土）

日本にパンダが来てから50年以上が経ち、現在は東京都に4頭、和歌山県に4頭が暮らしています（今年4月上旬時点）。かつては福岡県や北海道などにもいました。政治経済とも関係する日本のパンダ史をひも解くと共に、パンダの生涯や体の特徴、高齢化するパンダのケアや保護活動などについて、新たなトピックも踏まえながら解説します。

●第2回 世界のパンダに会いに行く！ 9月7日（土）

世界では600頭以上のパンダが飼育され、このうち約60頭が中国本土以外にいます（今年3月時点）。昨年は日本やアメリカ、イギリスなどから15頭以上が中国へ渡り、今年も10頭以上が中国へ行く予定です。一方で、中国が国外へ新たにパンダを貸し出す計画もあります。

気候やパンダ舎の構造、観覧者の様子などは、国・地域によって異なります。それぞれの地で、パンダはどのように暮らしているのでしょうか。

本講座では、自ら撮影したたくさんの写真・動画を交えながら、世界各地のパンダについてお話しします。『パンダワールド』執筆後に訪れたロシアやデンマークのパンダのほか、日本から中国へ渡ったパンダの暮らしぶりも紹介します。

【本講座に関係する講師の著作・写真】



『パンダワールド
We love PANDA』
（大和書房）



『パンダとわたし』
黒柳徹子と仲間たち 著作
（朝日新聞出版）



「シャンシャン」
（写真：中川講師 提供）



講師

なかがわ みほ

中川 美帆

パンダジャーナリスト

講師略歴

早稲田大学教育学部卒。
毎日新聞出版「週刊エコノミスト」などの記者を長年務めた経験を活かして、パンダにまつわる政治、経済、文化、歴史、生態など各方面のスペシャリストに取材し、発表している。23カ国・地域の41カ所のパンダの飼育施設を訪問した（2024年3月時点）。2023年10月には、四川省にある「中国ジャイアントパンダ保護研究センター」の「雅安碧峰峡（があんへきほうきょう）基地」を訪れ、同年2月に中国へ渡ったシャンシャンに再会。その模様をレポートした。

著作に『パンダワールド We love PANDA』（大和書房）、『パンダとわたし』（共著：朝日新聞出版）など。

お申込み方法 インターネットでお申込みください

お申込みは6月5日（水）9：00以降

東京都立大学オープンユニバーシティ インターネット <https://www.ou.tmu.ac.jp/web/>

※高校生は、在学高校名と学年を明記してください。